

子」が一定数いると懸念される。
このような子どもたちの受け皿となるような更なる対策が必要なのではないか。町の見解を問う。

A 当町におきましては、学校の努力により、保護者とまったく連絡の取れていない児童生徒はおりません。

また、次年度に向けては、中学校における「校内フリースクール」の設置に向けた準備を行っています。これは、自分の学級に入りづらい生徒が、自らのペースで落ち着いて学習・生活ができる校内の空間であり、ここに通室することによって、学習の遅れやそれに基づく不安が解消され、早期に学習や進学に関する意欲を回復する効果が期待されます。

今後も児童生徒や保護者にとつてより望ましい支援や環境の確保に向けて検討してまいります。

(教育長)



議席4番

鈴木 英明 議員



AIオンデマンド交通について

Q 10月11日にAIオンデマンドバスの実証実験が開始されましたが、利用者の登録状況について伺いたい。

A 交通空白区域における移動の課題、具体的には高齢者については主に子どもたちの部活動や塾への送迎などを解決するため、東京大学モビリティ・イノベーション連携研究機構の須田義大教授から紹介いただきました埼玉県北本市の事例を参考に、ワゴン車3台を活用したAIオンデマンドバスの運行を実施いたしました。12月3日現在の登録者数は323名で、利用者数は延べ

232名となっております。

(企画部長)



Q 利用対象者を境地区の自動運転バスの停留所が近くにない方、運転免許を返納した方、高齢者のみの世帯にも広げてはどうかと考えます。当町の考えを伺いたい。

A 今回のAIオンデマンドバスの運行は、まずは実証事業ということで、公共交通の乏しい空白地域の住民の移動の自由を確保することを目的として、境地区以外の町民を対象としています。今後の運行に際しましては、境地区在住の方のご利用も含め、利用者の皆様が使いやすいような形を模索しながら実施していきたいと考えております。

(企画部長)

防災アプリについて

Q 6月に登録開始した新たな防災アプリ(ニューサカインフォ)の登録状況について伺いたい。

A 新たな防災アプリは、マイナンバーカードによる人認証機能と連携したもので、これにより、避難所でQRコードをスマホで読み取るだけで、避難者名簿へ自動登録され、より効率的にかつ正確・迅速に実態を把握することが可能です。

現在の登録状況につきましては、12月4日現在で、1,156人であり、総務省調査のデータに照らし計算した登録率は9.5%となり、各自治体の防災アプリ登録率の全国平均は、6.2%に対し、当町の登録率はこれをやや上回っています。

今後も登録者の推移の分析を行い、普及・周知に努めてまいります。

(危機管理部長)

